

表9.

症例1 57歳、女性、体重46kg、身長156cm 診断：重症再生不良性貧血 臨床経過：4年前より上記診断にて加療中、副腎皮質ホルモン、ATG療法により一時的に改善するも汎血球減少は持続している。現在、外来にて1日metenolone 10mg服用で経過観察している。WBC2,500/ μ L、Hb6.7g/dL、Plt8,000/ μ Lで赤血球濃厚液2単位を約2週間に1回輸血してHbは6g/dL以上を保っている。出血傾向は下腿に軽度の点状出血を認め、歯みがきの時に軽度の出血を見る。

・血小板輸血はどのように行いますか。

1：1-2週間に1回、血小板濃厚液を10-15単位輸血する。

2：1-2週間に1回、HLA適合血小板濃厚液を10-15単位輸血する。

3：大量の鼻出血や内臓出血の徴候が出現したら、HLA適合血小板濃厚液を輸血する。

4：脳内出血、肺出血、消化管出血で入院加療が必要になってとき、初めて血小板濃厚液輸血を行い、この時はHLA適合血小板を用いる。

5：その他

回答	度数	パーセント	累積度数	累積パーセント
1	2	1.03	2	1.03
2	53	27.18	55	28.21
3	130	66.67	185	94.87
4	3	1.54	188	96.41
5	7	3.59	195	100